

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

(羽曳野市立埴生南小学校)

【調査の目的】

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査の対象学年】 小学6年生

【調査の内容】

①教科に関する調査（国語、算数）

出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・強化に関し、以下のとおりとする。

- ①身に着けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ① 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【調査実施日】 令和5年4月18日（火）

【調査結果】

『国語』

成果	『【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く』『図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる』設問の正答率が、大阪府正答率平均を上回っている。 ⇒（要因）他教科で、グラフの読み取りに力を入れていることが影響したと考えられる。また、複数の条件や情報を捉え、得た情報を整理し、問題点と解決方法を記述できた児童が多かったと考えられる。 『相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する』『情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる』設問の正答率が、大阪府正答率平均を上回っている。 ⇒（要因）書かれている文章と図を関係付け、文章の要旨を「食品と栄養素の関係」という、別の言葉に置き換えることができた。本校が取り組んできた、情報を分類し、それぞれのカテゴリーにネーミングをする活動が一定の成果を上げた要因になったと言える。
----	---

課題	『寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているかについて、分かったことをまとめて書く』『目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる』設問で、無回答率が最も多かった。 ⇒（要因）後半の問題でさらに記述式であったため、無回答が多かったと考えられる。時間配分を考えながら問題に取り組む指導が必要である。 『【インタビューの様子】の傍線部イ（～というのは、どのような姿ですか。）のように質問した理由として適切なものを選択する』『必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容の中心を捉えることができるかどうかを見る。』設問の正答率が、全国、大阪府正答率平均を下回っている。 ⇒（要因）話すこと・聞くことの領域全般において正答率が低かった。インタビューの経験の乏しさから、基本的な質問の仕方が浸透していないことが考えられる。今後、状況に応じた質問の仕方を身に付けていく必要がある。
----	--

『算数』

成果	1（1）「伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を考察して規則性を見つけていく」設問（椅子を重ねる際、4脚のときの高さを基に5脚のときの高さを求めるために、椅子の数が1脚ずつ増えると、高さは6 cm ずつ高くなるという規則性を見つける。） ⇒（要因） ・表から変化の特徴を読み取る力が定着していることが正答率を上げたと考えられます。 ・この問題は大問1の最初の問題であり、問われていることが明確であるため比較的答えやすい問題であったと思われます。
課題	4（3）「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」設問（6年生のグラフと、5年生と6年生を合わせたグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」の人数に着目して、違いをまとめる） ⇒（要因） ・「6年生のグラフ」と、「5年生と6年生を合わせたグラフ」「番目」の3つの言葉と数を使って記述しなければならない。その為、二つの事柄「30分以上の運動をした日数が「1日」の人数について、6年生のグラフでは、2番目に多いこと」「30分以上の運動をした日数が「1日」の人数について、5年生と6年生を合わせたグラフでは、1番目に多いこと」を書くことが必要である。「0日についてまとめたこと」の例文を基に記述できれば容易であると考えます。この大問4（全4問）は生活の中で算数を活用する場面が題材となっており、示された複数のグラフから、データの特徴を捉え考察したり、見いだしたことを表現したりすることが難しかったと考えられます。 全問を通して ⇒基礎基本の定着だけでなく、それが、どんな問われ方でも活用できるようにすることが必要である。例えば、大問2で必要となる算数の知識は、 （1）台形とは、向かい合った1組の辺が平行な四角形である。 （2）正方形とは、四つの辺の長さが全て等しく、四つの角が全て直角である。 （3）正三角形とは、一つの角の大きさが60°である。 （4）三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求められる。 であり、図形の基礎知識があれば解答することができます。しかし、大問2は全部で7ページあり、複雑な問題でもあります。問題の字数や図形の複雑さに臆さず取り組む前向きな気持ちも必要になると考えます。

『課題克服のために』

調査結果の分析を進める中で、本校の子どもたちには「習得した知識・集めた情報を使って、自分の考えを表現する学びが必要であること。」「根拠を明らかにしながら、自分の意見を発表する・文章を書くという経験がまだまだ足りていないこと。」「記述式に慣れること。」などが課題として浮かび上がり、全教科で子どもが主体的に取り組む問題解決型学習を進めていくことの必要性を感じています。

また、「言語能力の育成」の観点から、「情報を読み取り、そこから考えた自分の考えをわかりやすく伝えるように書く力」の育成に努めてまいります。

今年度、本校では『子どもが主体的に取り組む授業をめざして～自分の思いを豊かに表現できる子の育成～』をテーマに校内研究・授業研究を進めております。学校全体で子どもたちに『つきたい力』として、①必要な情報を効果的に集める力 ②集めた情報を活用して課題を解決しようとする力 ③集めた情報を整理し、わかりやすく伝える力を掲げ、教科横断的に取り組みを進めております。また、「Xチャート」「Yチャート」などの思考ツールを活用したデータを分類・整理する方法を身に付け、そこから「情報を読み取り、自分の考えをわかりやすく伝えられるように書く力をつける」ことに繋げたいと考えています。

併せて、一斉学習、個別学習、協業学習それぞれの学習場面に合わせて、効果的に ICT 機器（タブレット端末等）を活用できる力の育成に努めてまいります。

『児童質問紙より』・・・アンケートから見える埴生南小学校の児童たち（6年生）の様子

成果	【学校生活について】 ○設問9「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 ⇒ほぼ全員に近い児童がいじめ撲滅に向けた強い意志を持ってくれています。平素からの仲間づくり・集団づくりの取り組みの成果が伺えます。 【自身について】 ○設問7「将来の夢や目標を持っていますか」 ○設問16「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」 ○設問33「5年生までに受けた授業では、問題解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいましたか」 ⇒各設問において全国や大阪府のデータより、児童が肯定的（「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答）に答えている割合が高く、将来の夢や目標に向けた学習を自ら計画的に前向きに取り組もうとする姿勢が伺えます。 【ICT機器の活用について】 ○設問32「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」 ⇒週に1回以上使用したと回答した生徒が約9割超えとなり、全国や大阪府のデータより本校のICT機器の活用が積極的に行われている様子が伺えます。 【図書館活用について】 ○設問21「休み時間や放課後、休日等に学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか」 ⇒週に複数回利用している児童が多いことが伺え、学校図書館での本の貸し出し冊数の多さにもつながっていると考えられます。 ※羽曳野市子ども読書推進計画 年間一人当たりの貸し出し目標 60冊 ⇒ R4年度 埴生南小学校 74.6冊
----	--

課題	【学習活動について】 ■設問18「土曜日や日曜日など<u>学校が休みの日に</u>、どれくらいの時間、勉強しますか」 ⇒設問に対して、「全くしない」を含め「30 分より少ない」と回答した児童が約 7 割を占め、全国や大阪府に比べ顕著に多くなっています。 調査結果からは、普段（月曜から金曜）の勉強時間には大きな差異が見られないことから、学習する時間の継続性（毎日の学習習慣）が大切であることが伺えます。 ■設問24「英語の勉強は好きですか」 ■設問25「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いませんか」 ■設問58「学校の授業以外で英語を使う機会がありましたか」 ■設問27「外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知ったりしてみたいですか」 ⇒設問に対して肯定的な意見を回答した児童が全国や大阪府に比べ顕著に少なく、子どもたちの英語学習や多文化理解に対する意欲が低いことが懸念されます。 学校では、専科指導教員や ALT の活用をとおして、英語（外国語活動）の楽しさやコミュニケーション力の育成に取り組んでいます。また、各学年において発達段階に応じた多文化理解教育にも取り組んでまいります。 【生活習慣について】 ■基本的な生活習慣の確立に課題が伺えます。 ⇒設問1「朝食を毎日食べますか」の質問に対して、「まったくしていない」を含め、約 1 割の児童が「あまりしていない」と回答しています。 また、設問2「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」、設問3「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」の質問に対しては、否定的な回答をした児童が全国や大阪府に比べ、多い傾向にあります。 これらのアンケート調査から、子どもたちの基本的な生活習慣の確立と食育の観点からの規則正しい食生活の確立がまずはベースにあるのではないのでしょうか。 また、今回の調査では質問項目には出てきませんでしたが、本校では携帯電話やゲーム機依存の高さが懸念されます。学校と家庭が連携して、適度な使用にとどめる家庭内でのルールづくりやセルフコントロールする力（自制心）を育む教育（取り組み）の必要を感じています。ご家庭でのご協力をお願いいたします。
----	---